

# 四半期報告書

(第10期第1四半期)

自 平成20年7月1日  
至 平成20年9月30日

株式会社マクロミル

東京都港区港南二丁目16番1号

# 目 次

	頁
表 紙 .....	1
第一部 企業情報 .....	2
第 1 企業の概況 .....	2
1 主要な経営指標等の推移 .....	2
2 事業の内容 .....	3
3 関係会社の状況 .....	3
4 従業員の状況 .....	3
第 2 事業の状況 .....	4
1 生産、受注及び販売の状況 .....	4
2 経営上の重要な契約等 .....	4
3 財政状態及び経営成績の分析 .....	5
第 3 設備の状況 .....	7
第 4 提出会社の状況 .....	8
1 株式等の状況 .....	8
(1) 株式の総数等 .....	8
(2) 新株予約権等の状況 .....	9
(3) ライツプランの内容 .....	11
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移 .....	11
(5) 大株主の状況 .....	11
(6) 議決権の状況 .....	12
2 株価の推移 .....	12
3 役員の状況 .....	12
第 5 経理の状況 .....	13
1 四半期連結財務諸表 .....	14
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	14
(2) 四半期連結損益計算書 .....	16
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	17
2 その他 .....	21
第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....	22

[ 四半期レビュー報告書 ]

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成20年11月14日

**【四半期会計期間】** 第10期第1四半期（自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日）

**【会社名】** 株式会社マクロミル

**【英訳名】** MACROMILL, INC.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役会長 福 羽 泰 紀

**【本店の所在の場所】** 東京都港区港南二丁目16番1号

**【電話番号】** 03（6716）0700（代表）

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 財務経理本部担当 木 原 康 博

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区港南二丁目16番1号

**【電話番号】** 03（6716）0700（代表）

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 財務経理本部担当 木 原 康 博

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第10期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第9期
会計期間	自平成20年 7月1日 至平成20年 9月30日	自平成19年 7月1日 至平成20年 6月30日
売上高(千円)	2,005,411	7,413,222
経常利益(千円)	469,936	2,157,862
四半期(当期)純利益(千円)	227,114	1,167,967
純資産額(千円)	5,820,841	5,841,598
総資産額(千円)	7,034,672	7,350,231
1株当たり純資産額(円)	41,667.80	41,952.87
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	1,766.25	9,084.89
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	9,083.24
自己資本比率(%)	76.2	73.4
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	80,047	1,483,788
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	208,427	1,253,854
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	167,303	329,722
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	3,043,026	3,497,051
従業員数(人)	320	314

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当社グループは当社（株式会社マクロミル）、連結子会社3社及び持分法適用関連会社1社により構成されております。当社グループは、WEB調査票作成、調査対象者抽出、依頼メール配信、実査（回収データ収集）、リアルタイム集計、納品データ生成に至るまでの一連の工程を、WEBサイト上で自由に行うことを可能とした、自動インターネットリサーチシステム（Automatic Internet Research system、以下「AIRs（エアーズ）」という。）を独自開発し、AIRsを利用することによるネットリサーチ事業を主たる業務として行っております。

当第1四半期連結会計期間における、主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

### <ネットリサーチ事業>

主な事業内容の変更はありません。

なお、平成20年7月にMACROMILL Korea, INC.を設立し（出資比率38.5%）、当第1四半期連結会計期間より持分法適用関連会社に含めております。

## 3【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、以下の会社が新たに提出会社の関係会社となりました。

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(持分法適用関連会社) MACROMILL Korea, INC.	韓国ソウル市	千ウォン 1,300,000	韓国におけるネットリサーチ、 その他リサーチサービス及びマ ーケティング全般に関するコン サルティング業務	38.5	技術援助 役員の兼任1名 出向1名

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(人)	320 (23)
---------	----------

(注)従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第1四半期連結会計期間の平均人員を( )外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(人)	254 (22)
---------	----------

(注)従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第1四半期会計期間の平均人員を( )外数で記載しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当社グループは生産活動を行っておりませんので、該当事項はありません。

#### (2) 受注実績

当社グループでは、概ね受注から納品までの期間が短く、受注管理を行う必要性が乏しいため記載を省略しております。

#### (3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間の販売実績を事業のサービスごとに示すと、次のとおりであります。

サービス名	当第1四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
	(千円)
自動調査	1,117,920
集計	94,714
分析	126,169
定性調査(グループインタビュー等)	80,497
カスタマイズリサーチ	184,866
グローバルリサーチ	254,625
モバイルリサーチ	21,142
その他	125,474
合 計	2,005,411

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態及び経営成績の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、サブプライムローン問題に端を発した世界経済の混乱を背景に、企業収益の減少や世界的な資源・食料価格の高騰等、景気の減速感が強まっております。

かかる状況の下、当社グループでは、自動インターネットリサーチシステム（AIRs）を核としたビジネスモデルの海外展開、新規顧客の開拓及び既存顧客の取引拡大に注力し、品質の高いサービスを大量に提供し続けるための優秀な人材採用や人材育成プログラムによる提案力の向上、顧客起点に立った組織体制の整備を進めるとともに商品力の強化にも努めてまいりました。また、従業員数の増加に伴いオフィス増床を行い、就業環境及び業務効率の改善に努めました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は2,005百万円、経常利益は469百万円、第1四半期純利益は227百万円となりました。

事業のサービス別売上高については、以下のとおりであります。

#### 自動調査サービス

自動調査サービスは、当社が独自開発した自動インターネットリサーチシステム（AIRs）を利用する市場調査サービスであり、当社グループの主力サービスとなっております。当サービスは、AIRsへの継続的な追加開発により機能を拡張させることで、自動調査として対応できる範囲を拡大していること、及び人員の拡充、提案力の向上、周辺サービスの拡充等により顧客の課題解決のための体制強化を進めたことから受注案件数が伸びました。この結果、当サービスの売上高は1,117百万円となりました。

#### 集計サービス

集計サービスは、人員に対する教育体制の強化によるサービスレベルの向上をはかったこと、及び顧客に提供可能な回答データの範囲を拡大し販売を開始したことから、売上が増加いたしました。この結果、当サービスの売上高は94百万円となりました。

#### 分析サービス

分析サービスは、営業ツールを拡充するとともに提案型営業を推進し、調査データ回収後の工程であるレポート作成、及びデータ回収の前段階である調査票設計を強化したことにより、売上が堅調に推移いたしました。この結果、当サービスの売上高は126百万円となりました。

#### 定性調査サービス（グループインタビュー等）

定性調査サービスは、前連結会計年度までは分析サービスに含めて売上を計上しておりましたが、当第1四半期連結会計期間からは個別表記しております。当サービスは販売体制を整備したことや提案型営業を推進したことで顧客の認知度が上がり売上が好調に推移いたしました。この結果、当サービスの売上高は80百万円となりました。

#### カスタマイズリサーチサービス

カスタマイズリサーチサービスは、AIRsで対応できる範囲を超えた個別性の高い調査案件につき、オーダーメイドで調査票作成及びデータ回収を行うサービスです。当サービスは、AIRsの継続的な機能追加により自動調査サービスで受注できる範囲を拡大させていることから一部の調査が自動調査で対応可能となっておりますが、顧客がネットリサーチに求める技術水準が高度化したことと併せて提案型営業を推進した結果、より高度で複雑な処理を要する調査案件の受注が増加いたしました。また、平成20年8月1日よりサービスを開始した『MindMill（マインドミル）』の売上もこのサービスに含んで計上しております。この結果、当サービスの売上高は184百万円となりました。

#### グローバルリサーチサービス

グローバルリサーチサービスは、当社連結子会社である株式会社イー・アイ・ピーによる海外調査会社向けの調査パネル提供サービス、及び当社が国内企業向けに提供する海外の生活者を調査対象とした市場調査サービスです。当サービスの売上高は254百万円となりました。

#### モバイルリサーチサービス

モバイルリサーチサービスは、携帯電話を利用して画像（写真）データを収集したり、商品の購入直後のリアルな生活者心理を調査するサービスです。当サービスの売上高は21百万円となりました。

#### その他サービス

その他サービスは、主に当社の連結子会社である株式会社イー・アイ・ピーが提供しているWEBマーケティングシステムの開発などによるサービスのほか、平成19年12月より提供を開始している商品購買調査サービス「QPR<sup>TM</sup>」等の売上を含んで計上しております。当サービスの売上高は125百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、7,034百万円となり、前連結会計年度末に比べ315百万円減少いたしました。これは主に、売掛金141百万円の増加要因がありましたが、現金及び預金454百万円の減少要因があったことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、1,213百万円となり、前連結会計年度末に比べ294百万円減少いたしました。これは主に、モニタポイント引当金30百万円の増加要因がありましたが、未払法人税等337百万円の減少要因があったことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、5,820百万円となり、前連結会計年度末に比べ20百万円減少いたしました。これは主に、少数株主持分11百万円の増加と利益剰余金15百万円の増加要因がありましたが、評価・換算差額等51百万円の減少要因があったことによるものであります。この結果、自己資本比率は76.2%となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ454百万円減少し、3,043百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは80百万円の支出となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益445百万円や減価償却費65百万円、モニタポイント引当金の増加30百万円の増加要因がありましたが、法人税等の支払額525百万円及び売上債権の増加132百万円の減少要因があったことによるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは208百万円の支出となりました。これは主に、オフィス増床に伴う有形固定資産の取得による支出104百万円や、投資有価証券の取得による支出54百万円、自動インターネットリサーチシステム(AIRs)の開発に伴うソフトウェアの取得による支出42百万円の減少要因があったことによるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは167百万円の支出となりました。これは配当金の支払額167百万円の減少要因があったことによるものであります。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間において、該当事項はありません。



### 第3【設備の状況】

#### (1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

#### (2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度末に計画した重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

#### 第4【提出会社の状況】

##### 1【株式等の状況】

###### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	418,560
計	418,560

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成20年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成20年11月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	128,586	128,586	東京証券取引所 (市場第一部)	
計	128,586	128,586		

(2) 【新株予約権等の状況】

平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の内容  
(平成16年9月29日定時株主総会決議)

	第1四半期会計期間末現在 (平成20年9月30日)
新株予約権の数(個)	444
新株予約権のうち自己新株予約権の数	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	888
新株予約権の行使時の払込金額(円)	346,605
新株予約権の行使期間	自平成18年10月1日 至平成26年9月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 346,605円 資本組入額 173,303円
新株予約権の行使の条件	(注)4, 5
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)6
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注)1 当社が新株予約権付与後、株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により目的となる株式の数が調整されます。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとします。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2 当社が新株予約権付与後、株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

3 当社が新株予約権付与後、時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分等を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生ずる1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4 新株予約権の行使の条件または対象者と当社との間の個別の新株予約権割当契約により、個別の対象者の行使期間中における新株予約権の行使が制限されることがあります。

5 (1) 付与対象者は、次の場合には新株予約権を喪失します。

懲戒解雇または諭旨解雇の制裁を受けた場合

当社を退職した場合

死亡した場合

(2) 被付与者が死亡した場合には、一切の相続は認めないこととされております。

(3) その他の条件については、当社と付与対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによります。

6 新株予約権の譲渡または担保権の設定は禁止されております。

7 新株予約権の目的となる株式の数は、株主総会決議に基づき、平成16年12月21日開催の取締役会で決議された新株予約権の発行数から、退職等の理由により権利を喪失した者の新株予約権の数を減じております。

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づく新株予約権の内容  
 (平成18年9月27日定時株主総会決議)

	第1四半期会計期間末現在 (平成20年9月30日)
新株予約権の数(個)	368
新株予約権のうち自己新株予約権の数	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	368
新株予約権の行使時の払込金額(円)	256,350
新株予約権の行使期間	自平成20年10月1日 至平成28年9月27日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 256,350円 資本組入額 128,175円
新株予約権の行使の条件	(注)4, 5
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)6
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注)1 当社が新株予約権付与後、株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により目的となる株式の数が調整されます。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとします。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2 当社が新株予約権付与後、株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げます。

調整後行使価額 = 調整前行使価額 ×  $\frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$

3 当社が新株予約権付与後、時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分等を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生ずる1円未満の端数は切り上げます。

調整後行使価額 = 調整前行使価額 ×  $\frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$

4 (1) 1個の新株予約権の一部の行使でないこととされており

(2) 権利行使時においても、当社の取締役であることを要します。

5 (1) 付与対象者は、次の場合には新株予約権を喪失します。

当社を退職した場合

禁錮刑以上の刑に処せられた場合

降任、降格以上の制裁を受けた場合

(2) その他の条件については、当社と付与対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによります。

6 新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要します。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成20年7月1日～ 平成20年9月30日	-	128,586	-	930,358	-	963,899

(5) 【大株主の状況】

当第1四半期会計期間において、オープンハイマーファンズ・インクから平成20年8月7日付（報告義務発生日 平成20年7月31日）にて大量保有報告書の変更報告書が提出されており、平成20年8月7日現在で6,360株を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容が確認できないため、当社として実質所有株式数の確認ができません。

なお、オープンハイマーファンズ・インクの大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
オープンハイマーファンズ・インク	アメリカ合衆国ニューヨーク州ニュー ヨーク、リバティ・ストリート225、 ワールド・フィナンシャル・センター2	6,360	4.95
合計		6,360	4.95

当第1四半期会計期間において、野村証券株式会社及びその共同保有者から平成20年9月3日付（報告義務発生日 平成20年8月29日）にて大量保有報告書の変更報告書が提出されており、平成20年9月3日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容が確認できないため、当社として実質所有株式数の確認ができません。

なお、同日現在での大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
野村証券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目9番1号	836	0.65
NOMURA INTERNATIONAL PLC	Nomura House 1, St.Martin' s-le Grand London EC1A 4NP, England	493	0.38
野村アセットマネジメント株式会社	東京都中央区日本橋一丁目12番1号	5,527	4.30
合計		6,856	5.33

当第1四半期会計期間において、スパークス・アセット・マネジメント株式会社から平成20年9月9日付（報告義務発生日 平成20年9月3日）にて大量保有報告書の変更報告書が提出されており、平成20年9月9日現在で9,295株を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容が確認できないため、当社として実質所有株式数の確認ができません。

なお、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
スパークス・アセット・マネジメン ト株式会社	東京都品川区大崎一丁目11番2号 ゲートシティ大崎	9,295	7.23
合計		9,295	7.23

#### (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成20年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

##### 【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 128,586	128,586	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	128,586	-	-
総株主の議決権	-	128,586	-

(注) 完全議決権株式には、証券保管振替機構名義の失念株式が1株含まれております。

##### 【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

## 2 【株価の推移】

### 【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年7月	8月	9月
最高(円)	155,000	120,100	105,700
最低(円)	121,000	98,700	86,800

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,043,026	3,497,051
受取手形及び売掛金	1,518,560	1,377,248
仕掛品	13,026	8,148
貯蔵品	923	2,583
繰延税金資産	206,854	229,079
その他	140,859	130,297
貸倒引当金	3,142	1,800
流動資産合計	4,920,110	5,242,608
固定資産		
有形固定資産	295,754	210,653
無形固定資産		
ソフトウェア	495,214	479,398
のれん	190,675	217,914
その他	17,042	22,336
無形固定資産合計	702,933	719,649
投資その他の資産		
投資有価証券	766,808	824,497
その他	349,065	352,821
投資その他の資産合計	1,115,873	1,177,319
固定資産合計	2,114,561	2,107,622
資産合計	7,034,672	7,350,231
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	376,062	369,663
未払法人税等	184,282	521,450
モニタポイント引当金	481,523	451,480
その他	171,962	166,039
流動負債合計	1,213,830	1,508,633
負債合計	1,213,830	1,508,633



(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	930,358	930,358
資本剰余金	963,899	963,899
利益剰余金	3,574,423	3,559,376
株主資本合計	5,468,681	5,453,634
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	95,272	51,613
為替換算調整勘定	15,513	7,468
評価・換算差額等合計	110,785	59,082
新株予約権	34,862	30,314
少数株主持分	428,084	416,731
純資産合計	5,820,841	5,841,598
負債純資産合計	7,034,672	7,350,231

( 2 ) 【四半期連結損益計算書】  
 【第 1 四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成20年 7 月 1 日 至 平成20年 9 月30日)
売上高	2,005,411
売上原価	932,486
売上総利益	1,072,925
販売費及び一般管理費	608,257
営業利益	464,667
営業外収益	
受取利息	10,710
受取配当金	1,046
為替差益	1,392
その他	2,531
営業外収益合計	15,681
営業外費用	
支払利息	209
売上債権譲渡損	1,431
持分法による投資損失	8,761
その他	10
営業外費用合計	10,412
経常利益	469,936
特別損失	
固定資産除却損	24,651
特別損失合計	24,651
税金等調整前四半期純利益	445,285
法人税、住民税及び事業税	183,338
法人税等調整額	12,941
法人税等合計	196,280
少数株主利益	21,889
四半期純利益	227,114

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第1四半期連結累計期間

(自 平成20年7月1日  
至 平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	445,285
減価償却費	65,012
のれん償却額	27,239
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,341
モニタポイント引当金の増減額(は減少)	30,043
受取利息及び受取配当金	11,757
支払利息	209
為替差損益(は益)	6,282
持分法による投資損益(は益)	8,761
固定資産除却損	24,651
売上債権の増減額(は増加)	132,642
たな卸資産の増減額(は増加)	2,960
未払金の増減額(は減少)	62,116
未払消費税等の増減額(は減少)	6,169
その他	49,451
小計	442,630
利息及び配当金の受取額	3,458
利息の支払額	209
法人税等の支払額	525,927
営業活動によるキャッシュ・フロー	80,047
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	104,383
ソフトウェアの取得による支出	42,028
投資有価証券の取得による支出	54,769
敷金保証金の回収による収入	5,672
その他	12,918
投資活動によるキャッシュ・フロー	208,427
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	300,000
短期借入金の返済による支出	300,000
配当金の支払額	167,303
財務活動によるキャッシュ・フロー	167,303
現金及び現金同等物に係る換算差額	19,652
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	475,431
現金及び現金同等物の期首残高	3,497,051
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	21,406
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,043,026

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	<p>当第1四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)</p>
<p>1. 連結の範囲に関する事項の変更</p>	<p>(1) 連結の範囲の変更 当第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありました埃尔貝市場諮詢(上海)有限公司は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。なお、AIP NEW YORK CO., LTD.については平成20年8月6日に新規設立しておりますが、四半期連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、持分法非適用非連結子会社としております。</p> <p>(2) 変更後の連結子会社の数 3社</p>
<p>2. 持分法の適用に関する事項の変更</p>	<p>(1) 持分法適用関連会社の変更 当第1四半期連結会計期間より、MACROMILL Korea, INC.は新たに設立したため、持分法適用の範囲に含めております。</p> <p>(2) 変更後の持分法適用関連会社の数 1社</p>
<p>3. 会計処理基準に関する事項の変更</p>	<p>(1) 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用 当第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用しております。なお、これによる当第1四半期連結会計期間の損益に与える影響はありません。</p> <p>(2) 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、仕掛品については個別法による原価法、貯蔵品については先入先出法による原価法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、仕掛品については個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)、貯蔵品については先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。なお、これによる当第1四半期連結会計期間の損益に与える影響はありません。</p>

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
	(3) リース取引に関する会計基準の適用 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、当第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用しております。なお、これによる当第1四半期連結会計期間の損益に与える影響はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年6月30日)
有形固定資産の減価償却累計額は、249,184千円であります。	有形固定資産の減価償却累計額は、230,857千円であります。

(四半期連結損益計算書関係)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
役員報酬	35,685千円
従業員賞与給与	221,951千円
広告宣伝費	36,531千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年9月30日現在)	
現金及び預金勘定	3,043,026千円
現金及び現金同等物	3,043,026千円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 128,586株

2. 新株予約権等に関する事項

ストックオプションとしての新株予約権

新株予約権の四半期連結会計期間末残高 親会社 34,862千円

3. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年9月25日 定時株主総会	普通株式	205,737	1,600	平成20年6月30日	平成20年9月26日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

ネットリサーチ事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメント売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

当第1四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

( 1株当たり情報 )

1 . 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年6月30日)
1株当たり純資産額 41,667.80 円	1株当たり純資産額 41,952.87 円

2 . 1株当たり四半期純利益金額等

当第1四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 1,766.25 円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	
四半期純利益(千円)	227,114
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る四半期純利益(千円)	227,114
期中平均株式数(株)	128,586
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	

(重要な後発事象)

当第1四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
当社は平成20年11月5日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式の取得をすることを決議いたしました。
1. 自己株式の取得を行う理由 経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行のため、自己株式の取得を行うものであります。
2. 取得の内容
(1) 取得する株式の種類 当社普通株式
(2) 取得する株式の総数 6,400株(上限) (発行済株式総数に対する割合4.98%)
(3) 株式の取得価額の総額 800,000千円(上限)
(4) 自己株式取得の日程 平成20年11月6日から 平成21年6月30日まで
(注) 市場動向等により、一部または全部の取得が行われない可能性があります。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月7日

株式会社マクロミル

取締役会 御中

### 監査法人トーマツ

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 村上 眞治 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 飯塚 智 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社マクロミルの平成20年7月1日から平成21年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社マクロミル及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 追記情報

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成20年11月5日開催の取締役会において、自己株式の取得を行うことを決議している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。

**【表紙】**

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年11月14日
【会社名】	株式会社マクロミル
【英訳名】	MACROMILL, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 福 羽 泰 紀
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都港区港南二丁目16番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役会長福羽泰紀は、当社の第10期第1四半期（自平成20年7月1日 至平成20年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

## 2【特記事項】

特記すべき事項はありません。